

【講師の先生による指導講評】

〔大田区教育指導課 STEAM 教育専門員 清水 一豊 先生〕

- ・「地域の公園」を題材とした単元を設定したことで、児童が地域のことを考え、地域の一員としての自覚をもちながら学習に取り組むことができていた。地域の公園の良さや課題について知るためにインタビューをし、直接見学に行ったりすることは、体験型学習となり大変に良かった。
- ・「〇〇がいきたくなる公園づくり」という活動を単元に取り入れたことで、ICT機器の活用につながっている。自分たちでコンセプトや設計図を考えることで、児童が自分の思いを形にする際に一つの選択肢として大いに役に立つと考えられる。
- ・発表する活動では、台本を見ずに聞き手の目を見て話している児童が多かった。自分たちのコンセプトや工夫したことを一生懸命に話すことができていた。相手意識をもって発表することの良さとしては、相手の反応を見ながら話すことができ、説明が不足していると感じた場合は付け足して話すなど、コミュニケーションをとりながら発表することが可能となり、説得力が増す。
- ・おたの未来づくり科を通して、様々な力が養われた。

【研究の様子】

- 「誰かのために」という相手意識をもって公園を設計できた。安全や環境についても視野に入れながら、たくさんの方が楽しめる公園を考えることができた。
- この活動を通して自分から同じグループの友達と積極的に関わることができた。地域の一員としての自覚が高まった。
- ICT機器技能が向上し、相手を意識したプレゼンテーションを作成できた。
- 自分たちの考えた公園のコンセプトをたくさんの人に伝える学習を通して、相手に分かりやすく伝える技術が向上し、対話スキルの向上が見られた。

【授業の様子】

